

平成22年度 学校評価結果報告書

(1) 学校教育目標	1 自主的精神に充ち、豊かな教養を身に付けた人間を育成する。 2 個人の価値を尊び、敬愛の念をもち、協調性に富む人間を育成する。 3 常に全体の一員であるという自覚をもち、責任を重んずる人間を育成する。 4 心身の健全なる発達を図り、公正なる判断力を養い、進んで実行する人間を育成する。
------------	--

(2) 現状と課題	1 本校は、大学進学率が8割を超す県内有数の進学校であるが、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足対策など、県が抱える課題を克服するために、難関大学及び医学部医学科等への合格者増が期待されている。 2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業においては、これまで多くの成果を上げてきたが、今年度から2期目の指定期間に入ったことから、より一層事業の改善・充実を図る取組が求められている。
-----------	---

(3) 重点目標	1 授業の充実
	2 当たり前のことが当たり前に見える心身共に健全な生徒の育成
	3 生徒の進路志望達成
	4 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の積極的推進

(4) 結果の公表	学校ホームページ上で公表する他、来年度のPTA総会で報告する。
-----------	---------------------------------

	学校番号	16
学 校 名	青森県立八戸北高等学校	
制課程	本校 校舎 ・ 分校	

自己評価実施日	平成23年 2月10日(木)
学校関係者評価実施日	平成23年 2月17日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名 保護者(PTA会長、PTA副会長3名、PTA母親委員長)5名 計9名

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	基本的な学習習慣の育成と45分授業の有効活用	授業を通して、生徒に対して課題提出の徹底や予習・復習の習慣付けを図る。 授業方法を工夫するとともに、完全授業やベル開始授業など授業時数を確保する。	各学年とも、英語・数学・国語の予習・復習の習慣付けは身に付きつつあり、課題や添削等の提出率も高い。しかし、理科や地科に対しては不十分である。ベル開始授業と完全授業の徹底を図ることで、授業時数を確保することができている。	B	公開授業を参観したが、教師は一生懸命であったが、生徒の反応は静かだった。教師の授業工夫が必要である。課題や添削等の指導は徹底されていて良い。	・ 基本的学習態度育成のために、学力向上委員会や教科主任会議などで問題点を吸い上げ話し合っていく。 ・ 教師の授業力向上のための研究授業や相互参観授業は、教科毎に日常的に実施できる体制を考えていく。
	教師の授業力向上	指導内容の重点化や教材の精選・工夫に努め、授業のねらいを明確にする。 研究授業、授業公開、相互参観授業を実施する中で、教師としての力量を高め合う。	研究授業や教科会議、予備校研修などの他、日常的な課題プリント等の作成により、指導力を高めるための研修は概ね実施されている。相互参観授業については、自教科の参観は概ね実施しているが、他教科の参観は極めて少ない。	B	45分授業はよいのではないかと。相互授業参観等は教師の指導力向上に役立つものなので、引き続き実施してもらいたい。	
2	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立のため、全教職員共通理解のもとで連携した指導を行う。 全ての教育活動を通じて、望ましい生活態度の育成に取り組む。	毎朝、全教職員が交代で挨拶や服装の指導を行っている他、日常のあらゆる場面で指導している。そのため遅刻者の減少や服装に関しては一定の成果は上がっているが、職員間に指導の差異が見られることから、全員一致した指導が必要である。また、自転車の運転マナーや歩行のマナーの悪さも外部から指摘されており、安全意識の高揚が課題である。	B	スキー教室など校外で教育活動する時に事故が発生した場合、どのように対処するのか。危機管理という面から事前に考えておくべきではないかと。	・ 課外活動の充実を盛り込むとともに生徒の心が一つとなる場面の設定に努力する。 ・ 不登校等悩みを抱える生徒へは、カウンセリング機能を充実させながら適切に対応していく。
	心身共に健康な生徒の育成	個々の生徒が抱える問題を、学年や分掌等と協力し、組織的に対応する。 ほけんだより等で情報を提供し、感染症対策の啓発を図る。	個々の生徒に対応する時間を十分とり、心身不調の早期発見・対応ができた。また、不登校ぎみの生徒に対しては、学年や部顧問と情報交換ができ、うまく連携をとることができた。感染症については、HRTの健康観察を早期に開始でき拡大を最小限に止めた。	A	北高はいわゆる進学校であるため教科指導が主体となっているが、生徒の心を育てる教育にも力を入れて欲しい。	
3	難関大合格プロジェクトの推進	進路指導目標を設定し、全校体制で戦略的に取り組む。 難関大を志望する母集団を形成し、進学意識の高揚に努める。	進路指導部と各学年の共通理解が図られており、全校体制が整っている。難関大対策として課外講習、外部模試、講演会等を実施している。プロジェクト参加者は、1年81名、2年120名、3年50名である。	B	難関大プロジェクトへの参加人数は2年と3年では差が大きいと、40～50名程度に絞った方がいいのではないかと。また、プロジェクトに参加していない生徒が疎外された気持ちを持たないよう、取り組みを工夫してほしい。	・ 生徒の進路意識を高揚させるとともに、進路指導にからめた「生活指導」を充実させる。 ・ 推薦及びAO入試希望者に対する、指導のシステム化を図る。
	進路意識の涵養と進路目標の早期設定	「進路指導＝生活指導」の徹底。 「総合的な学習の時間」等を活用し、進路学習を推進する。	「総合的な学習の時間」及び各学年で実施している「講演会」等により、進路意識の高揚を図るとともに、進路指導にからめた「生活指導」の充実にも努めているが、特に「総合的な学習の時間」における進路指導部の位置付けが、学年への関わり方も含めて明確でない現状がある。	B	推薦やAO入試がどのような流れで行われているのかを保護者にも知らせたいと欲しい。早い時期に進路を決定させる指導を継続してほしい。	
4	2期目のSSH事業及びコアSSH事業の推進と成果の普及	SSH事業及びコアSSH事業の効果が最大限発揮される指導計画を立てる。 事業評価を的確に行うとともに、その成果の普及に努める。	コアSSH事業には、全国18校が参加しゲンジボタルに関する共同研究を行い高い評価を得た。SSH本体事業も今年度から1年次生全員を対象とした科目「SSアクティベート」が加わるなど年々事業内容は多岐にわたってきている。また、様々な機会を捉え研究成果や情報の発信に取り組んでおり、新聞報道も数多くなされている。	A	SSH事業が理科・数学以外の教科にどのような影響があるか。他教科等に波及しているようには見えない。3年間でいろいろな事を行っているようだが、もっと簡単に分かるようにできないかと。	・ SSH事業により、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にした事業計画を作成する。 ・ SSHクラス生だけでなく1年生全員に履修させている科目「SSアクティベート」の内容を一層充実・深化させていく。
	校内支援体制の確立	事業目的について共通理解を図り、全教職員による協力体制を整える。	各学年SSH担任と関係教科の教員からなるSSH推進委員会を毎週開き、事業目的に対する共通理解と協力体制を整えた。国際性の育成や教科横断型授業、各種事業の運営など、できるだけ多くの教員に係わりを持たせようとした。しかし、コアSSHなど新規の事業や計画が増えたため、それに対応できる体制を構築できないまま、一部の教員に負担がかかった。	B	多くの教員が支援して行われている英語による課題研究発表会に参加したが、生徒の発表はきちんとしていた。今後もしいろいろな事業を特定の教員に頼るのではなく、全校体制で取り組んで欲しい。	

総括	・ 今年度は、教職員の学校運営への参画意識をさらに高めるために、学校評価制度の目的や仕組みなどを年度初めにきちんと説明した。 ・ 教職員による自己評価、授業アンケート、保護者対象アンケート、各分掌総括等を踏まえながら、学校評議員及び学校関係者評価委員会委員からの意見・要望等を十分に検討し、次年度の学校運営に生かして行く。
----	--